

令和5年度守恒小 「主体的・対話的で深い学びの実現

～生徒指導の要素を含む『学び合い』の活用を通して～

3年 道徳 「どんどんばしのできごと」

本時の主眼: 友達に誘われるがままに行動してしまった結果、情けなくなってしまう「ぼく」の気持ちを考えることから、よく考えて行動しようとする実践意欲を高める。

単元を通して目指す子どもの姿: 「仲間をだれ一人取り残さない」仲間意識、「授業が楽しい」「分かった」「安心できる」「うれしい」といった達成感や感動を味わう。

手だて① 自分の意見をもって、友達と意見の交流を行う。

手だて② 題材の「ぼく」の心情の変化がわかりやすいように、場面絵での「ぼく」の表情を拡大印刷したものを掲示する。

個人思考の姿: 自分自身を深く見つめ直し、正しい判断のもと行動することが重要であることを考えさせ、行動しようとする実践意欲を高めさせる。

手だて① 題材の導入前に、児童に「よく考えないで行動したこと」を尋ね、今までに周りに流されてしまった経験を振り返ることで自分事として考えられるようにする。

手だて② 「ぼく」の心情の葛藤を考えさせることで、正しい判断のもとに行動することが重要であることに気づかせる。

「学びあい1」個人思考後の集団思考の姿: 「目指す対話」だまってポロポロのかさをじいっとみていた「ぼく」の心情について交流する活動の中で、友達の話聞いて「そうか」と受け止めたり、「いいね」と共感したり、わからないところは尋ねたりして、自分の意見を見つめ直し、深い学びへとつなげていく。

手だて① 交流を行う前に、ワークシートに自分の考えを書かせることで自分の考えを明らかにさせる。

成果と課題

単元を通して目指す子どもの姿

「仲間をだれ一人取り残さない」仲間意識、「授業が楽しい」「分かった」「安心できる」「うれしい」といった達成感や感動を味わう。

手だて① 自分の意見をもって、友達と意見の交流を行う。

手だて② 題材の「ぼく」の心情の変化がわかりやすいように、場面絵での「ぼく」の表情を拡大印刷したものを掲示する。

○…自分の考えをもち、ワークシートに記入したことで、友達との意見交流が活発になり、学級児童全員が話し合いを行うことができた。

○…場面絵の「ぼく」の表情を拡大して掲示したことで、「ぼく」の心情の変化を捉えやすかった。

●…ワークシートを持って友達との意見交流を行ったため、ワークシートの見せ合いになっていた。

個人思考の姿

自分自身を深く見つめ直し、正しい判断のもと行動することが重要であることを考えさせ、行動しようとする実践意欲を高めさせる。

手だて① 題材の導入前に、児童に「よく考えないで行動したこと」を尋ね、今までに周りに流されてしまった経験を振り返ることで自分事として考えられるようにする。

手だて② 「ぼく」の心情の葛藤を考えさせることで、正しい判断のもとに行動することが重要であることに気づかせる。

手だて③ ワークシートの「ぼく」の心情を記入する部分を罫線のない吹き出しの形にすることで、児童が“文章にしないといけない”という抵抗感をもつことなく自身の考えたこと・思ったことをそのまま記入できるようにする。

○…児童から「ダメと分かっていたけれど、友達に誘われて寄り道をした」などの経験の話があり、題材への導入はスムーズに行えた。

○…授業終末段階において「後悔しないために、大切にしたいことは、どんなことですか。また、どんな気持ちですか。」の発問に対し、正しい判断のもと行動しようとする実践意欲が見られた。

●…一部の児童には、「〇〇に怒られるから」と自分の判断ではなく、他者によって行動を変えろといった考えが見られた。今後の道徳科の授業を通して、“自分”は“どうするのか・どう考えるのか”を今後も問いかけ、自分で考え判断できるようにしていきたい。

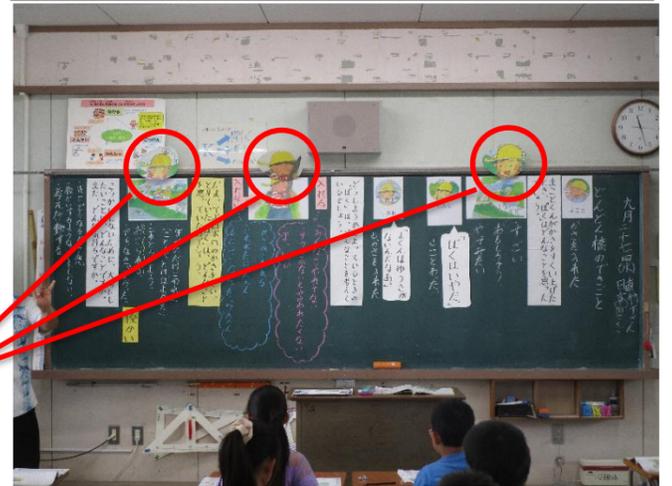
「学びあい1」個人思考後の集団思考の姿

だまってポロポロのかさをじいっとみていた「ぼく」の心情について交流する活動の中で、友達の話聞いて「そうか」と受け止めたり、「いいね」と共感したり、わからないところは尋ねたりして、自分の意見を見つめ直し、深い学びへとつなげていく。

手だて① 交流を行う前に、ワークシートに自分の考えを書かせることで自分の考えを明らかにさせる。

○…自分の考えをワークシートに記入したことで、自分の考えが明らかとなり、話し合いの場面において児童が自信をもって相手と交流できた。

「ぼく」の表情がわかるように拡大して掲示。また、変化がわかるように時系列で配置。



授業導入前、児童に今回の題材のようなことがなかったかを問う。



ワークシートに自分の考えを書き込む場面

